

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援事業所 あっぷる (児童発達支援事業)		
○保護者評価実施期間	令和6年12月18日		～ 令和6年12月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	令和6年12月18日		～ 令和6年12月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年2月1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・個々のニーズに合わせた対応ができる	・太田ステージ評価票で発達段階を把握するとともに、療育の中で強みと弱みを分析している。分析を基に子どもに合わせた支援方法を模索している。	・定期的に支援方法を見直し、アプローチの変更等を随時行う。
2	・親子通所ができる	・子どもの様子を具体的に伝えることで状態を共有できるように働きかけを行っている。 ・保護者から情報を引き出せるような対話を心がけている。 ・親子で安心して通所できるように信頼関係を築くようにしている。	・実際に保護者に療育の体験をもらい、子どもへの声かけの仕方や関わり方を考えてもらうきっかけを提供する。
3	・支援内容が充実している	・課題を豊富に用意し、個々の状態を見極めながら能力に応じた課題を提供している。 ・あえて同じことを繰り返し行うことで、見通しをもって活動することができ、安心や自信に繋がるようにしている。	・職員間でより積極的に意見交換をしたり、研修に参加して職員のスキルアップを図る。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・実際に取り組んでいることが保護者に伝わっていないことがある。	・発信する方法や機会が定まっていない。	・年度初めに会を開いて周知する。または利用時等に個別に周知する。 ・親子通所でない家庭も数回程度でも見に来てもらえるよう提案をする。
2			
3			